

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化學の進歩

昭和五年八月刊行

第四卷 第二輯

目次

原報

還元ニツケルの存在に於ける一酸化炭素の分解(第一報).....	
.....堀場信吉	73
.....李泰圭	

紹介

最近の接觸々媒理論(其の二)。Topochemie に就て.....李泰圭	61
Phosgen の光化學的生成に就て.....市川禎治	89
氣體一分子反應速度に就て(其の二).....城野和三郎	107

附録

接觸觸媒作用の理論に就て.....堀場信吉	13
-----------------------	----

第四卷第三輯は昭和五年十一月發行の豫
定であります。

本誌に關する批評注意要求等は京都帝國
大學物理化學研究室内 市川禎治あてに
願ひます。

昭和五年八月二十日 印刷
昭和五年八月廿三日 發行

(年三回刊行)
物理化學の進歩
第四卷第二輯
定價 金壹圓五拾錢

編輯主幹 堀 場 信 吉

發行者 佐 藤 正 叟

印刷者 高 橋 郁

發行所
東京市赤坂區傳馬町三丁目十番地

至 文 堂

振替東京二九五〇七番 電話青山 { 三四五六番
四三四三番

三協印刷株式會社印刷

自然科学研究叢書第一編
京都帝國大學教授 理學博士 園 正造先生著

高等代數學

上 卷
(群 論)

定 價 金 八 圓 送 料 金 二 十 七 錢

近世代數學の劃期的發達を招致したものは實に十九世紀末に現はれた群と體との理論である。かの方程式の可解性に關する疑問や或は希臘以來未解決の儘で殘されてゐた作圖問題等に對し明快な解決を與へたものは此の理論である。更に代數學を新な展望の下に開展せしめたものも亦此の理論である。實に群と體とは現代の代數學の根幹をなし今や正に數學の一部門を形成するに至つた。尙群と體とは數學の他の部門にあつても或は奥底に潛み或は表面に顯はれて重要な役目を演ずる。されば現代の數學を究めんとする者には勿論また廣く數學の基礎的考察をなす者に取つても必要缺くべからざる概念である。而もこれに關する著述は我が國に於ては皆無である。著者はこれを遺憾として兩者を上下二卷に分ち世界に於ける近世代數學の發達を大觀し更に自らの創意を加へて本書を完成するに至つた。著者は一般讀者の爲に微細の點に立入らず努めて大綱を掲げてその本領を容易に理解せしめることに意を用ひてゐる。實に本書は近世代數學の發達とその趨勢とを一目の下に瞭然たらしめる好個の著述である。

自然科學研究叢書第二編

九州帝國大學教授 理學博士 大島廣先生著
兼東京帝國大學教授

發生學汎論

定價金四圓五拾錢 送料金拾八錢

本書は動物各種に亘り興味津津たる個體發生の問題をば主として形態學的方面より觀じ現時世界に於ける生物發生學に關する最新最高の諸學說を網羅して著者多年の研究を要約し斯學の最尖端の動きを如實に述べたもので歐米に於ても殆どその類書を見ざる底のものである。

1. 生殖細胞の生立ちより受精、分割を経て發育の初期に至る經過を詳述し、一方には其準備として發生學の歴史、細胞及び細胞分裂に關する説明を與へ、他方には發生に伴ふ問題として處女生殖、遺傳、性別の原因等を論じた。
2. 處女生殖、性と遺傳等の方面には最新の知識を紹介した。例へば精子を與へずして人工的に卵を發育させる所謂人工處女生殖、或は核を除去した卵子に精子が入つて發育を遂げる童貞生殖、雌が雄となり又雄が雌に變じて生殖を行ひ得るに至る性の轉換、其等の結果として生ずる子の性、半身づつ雌と雄とが繼合はされた様な雌雄嵌合體の動物、雌雄何れにも屬せぬ間性のもの、或は程度を越えた超性の雌雄等に關する研究は、本書に於て始めて紹介せられた興味深い問題で正に輓近の生物學が到達した驚くべき成功の一端である。

3. 挿圖百五十餘は嶄新で珍奇な興味の深いものを選んだ。

著者は我國動物學界の權威、而も邦語で書かれた細胞學、遺傳學等の専門書は二三之を見るが發生學を主題として其等の問題に及んだ著書は全く本書を以て嚆矢とする。生物學を専門に志す士は勿論、醫者や醫學に志す人、動植物の文檢を受けんとする人、其他少くとも生物の發生に興味を有ちその最新の學說を知らんとする人々には必讀すべき好著である。

三 版

京都帝國大學教授 理學博士 園正造先生著

方 程 式 論

定 價 金 參 圓 九 拾 錢 送 料 金 拾 八 錢

著者園博士は我が國に於ける純正數學に於ける大家であり代數學の權威である。本書は著者が近代的頭腦を以て近世代數學の趨勢を洞察し、その發達の最高處に立つて方程式の理論と問題とを系統的に取扱つたもので、中等教育を卒へ數學を自修する人の爲に代數學の手引となり、又中等教育に携つてゐられる人々や、高等學校を始め各種専門學校に於て方程式を學んでゐられる諸子の爲に參考書となるやうに立案したものである。本書の内容は

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 第一編 總 說 | 第二編 三次及び四次方程式 |
| 第三編 實係數方程式の實根 | 第四編 對 稱 式 消 去 法 |
| 第五編 開平による方程式の解法、作圖問題 | |

の五編に分ちその理論に於て、その問題の解釋に於て著者の創意により全く他書に見ざる新味の横溢したものである。尙各項の説明は平易丁寧を旨とし一般に正面から行つてそれに達する経路を眼前に展開せしめるやうに努めてある。この點は初めて方程式を學ばれる人々に取つて目前の事は勿論他日更に進んでこの方面に深く立ち入らうとせられる場合にも極めて有益である。又例へば有理係數方程式の有理根を求めること、根の近似値を求めること、或は根の對稱式を係數で表はすことなどの如く、唯一寸理窟を知つたばかりでは實際に當つて問題を解くのに十分でない様な種類の事柄に對しては、その根本に横はる理論を明かにして、之に關する演算は如何にして手数を省き簡潔に處理すべきかを一々例を擧げて説き示してある。尙問題は所説の會得理解を資けることと問題自身の取扱ひに習熟せしめることの二點に留意して廣い範圍に亘つて種類を多く選び少なからず思考を廻らして之を整理分類し適處に配置してある。そして原則として各題毎に答を與へ或るものにはヒント又は略解を附して自修者の便宜を計つてある。故に本書は一讀して方程式に關する問題に見通しがつき、その解法に一定の方針が立つのである。

實に本書は數學專攻者は勿論一般の數學愛好者必讀の良書であるばかりでなく、高等學校、高等師範學校、高等工業學校その他各種の専門學校數學教科書として絶好の著書である。

好評九版

東北帝國大學教授 理學博士 大久保準三 著

最新物理學講義

定價金六四五拾錢 送料金廿七錢

本書は新制度の中等教育物理學教授要目に基いて物理學一般の知識を平易に且つ系統的に詳述して其の概念を遺漏なく收得せしめると共に日常生活に於て屢遭遇する多くの事項をも加へ物理學の實際的運用に資せしめんことを期した。就中其の基礎的事實並に其の原則・法則の物理學的意義を詳説し其の根本的知識を理解せしめることに努めた。且つ物理學最近の發達をも述べ力めて新知識を知らしめると共に世界の物理學進歩の趨勢を明かにした。挿圖は物理學講義に極めて重要な地位を占めるものであるから力めて多數に之を採用し而も十分に意を用ひて直接實驗した實物寫眞を多く收め機械器具の如きも多く實物の寫眞を以てした。尙各種類の計算を多數採録し其の模範的解法を示し何人にも直に要領を會得せしめるやうに心掛けた。

要するに本書は著者が豊富なる學識を以て物理學全般に亘り縦横に解説したるもの此の點に於て全く類書を見ないので中等學校物理學教員諸先生にとつては實に貴重なる教授資料に富む無比の寶典でありまた學生諸子は本書によつて中學程度以上の物理學を容易に自修し得るのである。實に本書は物理學專攻者、中等學校教師、學生、高等諸學校受験生その他苟も物理學を學ばんとする者萬人必備の最高模範的講義たる良書である。

自然科學研究叢書

第一編 高等代數學上卷 定價金八圓
(群論)

京都帝國大學教授 園 正 造 著
理 學 博 士

第二編 發生學汎論 定價金四圓五拾錢

九州帝國大學教授 大 島 廣 著
理 學 博 士

第三編 高等物理學概論 昭和六年三月發行

東北帝國大學教授 大久保準三 著
理 學 博 士

第四編 熱 力 學 近 刊

京都帝國大學教授 堀 場 信 吉 著
理 學 博 士

第五編 高等代數學下卷 近 刊
(對 論)

京都帝國大學教授 園 正 造 著
理 學 博 士

第六編

京都帝國大學教授 喜 多 源 逸 著
理 學 博 士